

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)
論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Timing of Maternal Smoking Cessation and Newborn Weight, Height, and Head Circumference

和文タイトル:

妊娠女性の禁煙時期の違いが出生児の体格に及ぼす影響

ユニットセンター(UC)等名: 宮城ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Obstetrics & Gynecology

年: 2023

DOI: 10.1097/AOG.0000000000004991

筆頭著者名: 龍田 希

所属 UC 名: 宮城ユニット

目的:

妊娠中の喫煙は低体重など児の成長や発達に負の影響を及ぼすことが知られ、喫煙女性の多くは妊婦に気がつくまで禁煙する。しかしながら、喫煙のタイミングと児への影響の違いについては明らかでない。そこで、妊娠中の禁煙時期の違いが出生児の体格に及ぼす影響を調べた。

方法:

エコチル調査に参加した 106,602 名のうち、データの揃っている 73,025 組の母子を対象とした。妊娠中の喫煙状況は、喫煙経験なし、過去に喫煙経験あり、妊娠初期に禁煙、妊娠中期に禁煙、妊娠末期に禁煙、継続喫煙の 6 群に分類した。アウトカムは出生時体重、身長、頭囲とした。

結果:

妊娠中に喫煙を継続した妊婦の割合は 3.1%であった。喫煙経験のない妊娠女性から出生した児と比較すると、妊娠中に喫煙を継続した妊娠女性から出生した児は出生時体重、身長、頭囲いずれも低下することが示された。また、妊娠中の喫煙期間が長いほど出生児の体格への影響が大きいことが明らかになった。

考察(研究の限界を含める):

妊娠中の喫煙は、出生児の出生時体重、身長、頭囲の減少と関連していることを確認した。さらに、禁煙は早ければ早いほど胎児の成長への影響が軽減されることが示された。本研究の限界として、妊娠中の喫煙状況は自記式質問票に基づいた分類であり、喫煙影響の過小評価の余地も考慮されるが、喫煙分類は尿中コチニン濃度と矛盾はなく、信頼できる結果と考えられた。

結論:

妊娠中の喫煙の有害性が改めて確認され、さらに禁煙は早ければ早いほど児への影響も軽減されることを示した。母親が喫煙習慣を有している場合に、公衆衛生上の早期介入の重要性を示す知見であると考えられる。